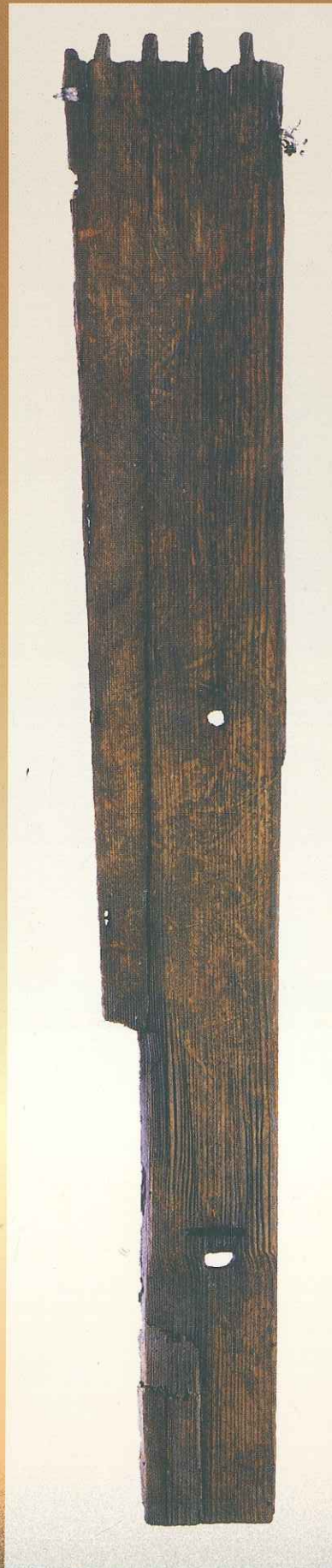


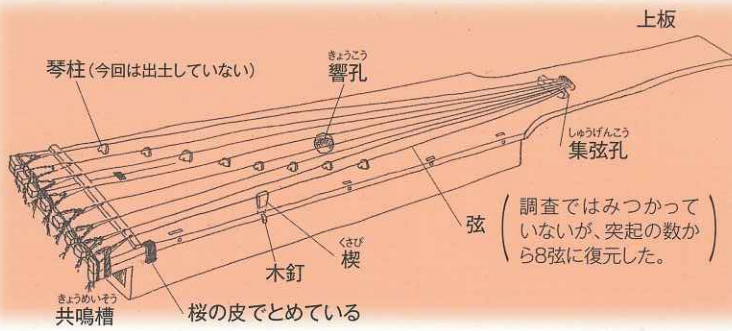
古墳時代の琴

下鈎遺跡

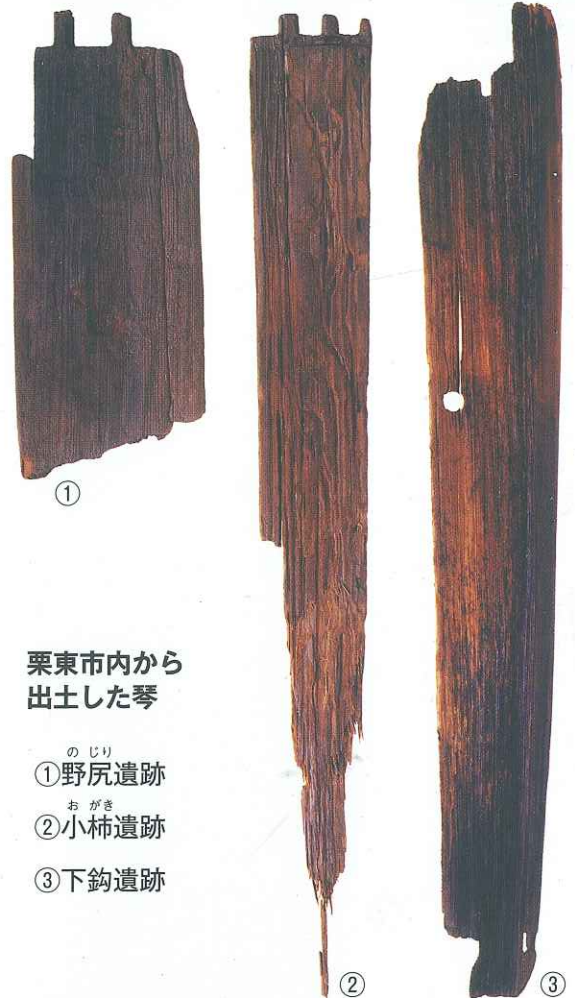
Shimomagari

琴は槽作りの琴で、上板部分にあたり、上板と槽を固定するための皮が残存しています。また楔で固定し、横から木釘を打ち込んだ痕が見られます。突起の数は現存で5つ存在しますが、集弦孔と響孔の位置から復原すると8突起存在していた可能性があります。残存する大きさは、長さ約158cm、幅24cmで、島根県石田遺跡(192cm)、千葉県国府関遺跡(161.2cm)、島根県前田遺跡(160.2cm)例とならんで全国でも最大級の部類に含まれます。栗東市では下鈎遺跡のほかに、小柿遺跡、野尻遺跡から琴が出土していますがいずれも大型に含まれます。琴の時期は、一緒に出土した土器の年代からおおむね古墳時代初頭(3世紀)と推定されます。





下鉤遺跡の琴 復元略図



栗東市内から出土した琴

- ①野尻遺跡
- ②小柿遺跡
- ③下鉤遺跡

下鉤遺跡

下鉤遺跡は、弥生時代を中心とする複合遺跡で、大型掘立柱建物2棟を含む遺構や青銅製品関連の遺物が多数発見されており、伊勢遺跡と並んで近江を代表する弥生時代の重要な遺跡とされています。2009年11月4日から2010年5月14日まで行った調査では、弥生時代後期後半(2世紀)から古墳時代前期(3~4世紀)の竪穴建物、周溝付建物、掘立柱建物、区画溝、大溝、河川と、奈良から平安時代(8世紀以降)の区画溝、掘立柱建物などが確認されました。琴は弥生時代から古墳時代にかけて存在した河川から出土しています。



調査地遺構略図